

中谷行夫 活動報告

Vol.9

誰にでも やさしい赤穂市をめざします！

建設水道委員会委員・市民病院経営改善調査特別委員会副委員長
議会報編集委員会委員・赤穂市環境審議会委員

ごあいさつ

皆様の温かいご支援によりまして、1期目の議員任期4年の最後の年を迎えております。残された任期をまとめの年として、過去のご要望、提案などについてしっかりと見つめ直し、これからも小さな声にも謙虚に耳をかたむけるため現場におもむき、スピード感を持って皆様のご期待に応えられるよう日々研鑽し、「誰にでもやさしく、安心して快適に暮らせるまちづくり」に誠心誠意、一つでも多く課題解決ができるよう取り組んでまいります。

今後ともより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

中谷行夫

赤穂市議会「見える議会活動」の議会改革は道半ば

赤穂市議会では議会活性化において、議会改革に取り組んでいますが、この2年間は議員定数などの「議員の在り方」に時間を費やし、議員定数1名を削減したものの、議会改革の取り組みが結果として、議会活動が市民の皆様はまだまだ見えてこないのが現状です。市民の皆様にご期待される議会改革が必要だと改めて感じております。

令和6年度赤穂会派代表として、普段から感じていることや先進市の事例を参考に提案していく所存です。



介護職員養成研修費用助成事業について（令和6年4月1日開始）

令和4年第3回定例会の私の一般質問において、福祉現場で働く人材を確保するために介護職員資格取得の助成制度の必要性について質しましたが、研修費用助成が事業化されました。

介護事業は、長時間労働や職務環境による精神的疲労、重労働な仕事内容に対する賃金が安いこともあって離職率が高く、採用率も低いという慢性的な人手不足などにより、赤穂市内の事業所においても求人をしていても応募がなく、人材不足が生じていることで介護サービスの利用が制限されている状況です。

介護職員養成研修費用助成とは

介護職を目指す人の就労支援を図るため、介護職員初任者研修又は実務者研修を修了し、一定期間以上、介護保険事業所に就労した人に対し、研修受講費用の一部を助成します。

補助対象経費の2分の1（100円未満切り捨て）又は補助上限額のうち、いずれか低い額が助成額となります。補助上限額は、初任者研修の場合35,000円、実務者研修の場合50,000円です。なお今後は、研修範囲を拡大検討していくとのことです。



(赤穂市HP)



令和6年第1回定例会（3月6日）

本会議で 代表質問を行いました

市長の施政方針に対する赤穂会の代表質問は、代表が各議員からの質問11項目を読み上げ、市長等の答弁の後、再質問、関連質問において各議員から細かく質しましたが、私は次の3点の項目について質しました。

赤穂市議会
インターネット中継
(録画映像)

1 市の財政状況と行財政改革の住民への理解について

◆ 住民説明会の開催について

赤穂市議会
インターネット中継
(録画映像)

質問

現在の厳しい財政状況から脱却し、将来にわたって持続可能な行財政運営を実現するため、不断の行財政改革に取り組んでいくには公共施設の縮減、補助事業の削減、使用料・手数料等の見直しなどによる市民サービスへの影響について、市民の皆様のご理解とご協力が不可欠です。

「財政非常事態宣言」に至る前に、この赤穂市を残し、持続可能にしていけるため、既存事業の見直しや財源確保等を大きな柱とした行財政改革の方針、その取り組みについて、市民が市政を考える機会として住民説明会を開催すべきではないでしょうか。

答弁

市民の皆様には市の広報紙やホームページを通じて、極めて厳しい財政状況にある本市の状況やそうした状況においても安定した市民サービスを将来にわたって提供していけるよう、第9次行財政改革大綱に基づき、歳入確保と歳出削減策に取り組んでいく旨をお知らせし、ご理解とご協力をお願いしてきたところです。

住民説明会を開催するなど包括的にご意見等を伺う機会を設ける予定は現在のところないが特に市民生活に大きな影響のある使用料、手数料等の見直しについては令和6年度使用料・手数料等審議会等を開催し、公募委員の募集を通じてご意見等を伺う。

2 防災・減災対策の取り組みについて

- ◆ 断水時における飲料水などの確保について
- ◆ 避難所などでのトイレの確保について
- ◆ 福祉避難所の開設について

質問

近い将来、必ずやってくると言われている南海トラフ地震の発生確率は、今後30年以内で70%から80%程度、50年以内は90%程度にも及んでいます。

避難所生活などによる生活環境の悪化や精神的負担などで、命をも奪う災害関連死により、「救えた命」への対策が急務となっています。

断水時の飲料水の備蓄、浄水場が稼働停止となった場合の隧道等の配水池の備蓄、個人や地域での災害用井戸としての把握はどのような状況なのか、また、能登半島地震を教訓に、今後どのような対策に取り組まれているのか。



飲料水兼耐水型貯水槽

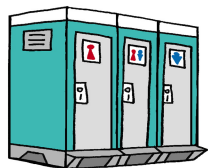
答弁

指定緊急避難場所に設置している防災備蓄倉庫などにペットボトルに入った飲料水を約1万本備蓄しているほか、野中・砂子公園に飲料水兼耐水型貯水槽を整備するなど災害における飲料水等の確保に努めている。更に隧道配水池を含め、7箇所の配水池には緊急遮断弁を設置しており、上水道が地震による稼働停止となった場合でも、配水池内に貯留された水道水を10日間程度利用することが可能となっている。また市内10箇所に防災井戸を整備しているが個人や地域での防災井戸については現在、把握できていない。

今後の対策については、地区防災計画の作成支援や防災訓練などを通じて各地のネットワークの形成や連携を図り、防災・減災対策に取り組んでいく。（裏面に続きます）

2 防災・減災対策の取組みについて

質問 簡易トイレや仮設トイレの備蓄、マンホールトイレなどの設備の整備状況はどの程度となっており、能登半島地震を教訓に、今後更に備えを拡充していくことについて、また、普段から市民に対して家庭における災害時のトイレ対策を図っていただくため、マニュアルブックを作成して、市のホームページでの啓発や全戸配布をすべきでないか。



質問 能登半島地震でも多くの要配慮者に必要とされた福祉避難所ですが、令和3年5月に災害対策基本法が改正され、「福祉避難所の確保・運営ガイドライン」の改定により、指定福祉避難所の指定を促進するとともに、事前に受入対象者を調整して、人的物的体制の整備を図ることで、災害時の直接の避難等を促進し、要配慮者の支援を強化することになりました。

赤穂市は福祉避難所をどのように開設できる体制なのか、今後どのように拡充を図っていくのか。

答弁 簡易トイレや仮設トイレなどの備蓄状況は、指定緊急避難場所の防災備蓄倉庫などに319基備蓄しており、また、マンホールトイレについては野中・砂子公園に6基、高須児童遊園に3基整備しており、適切に維持管理を行っていく。マニュアルブックの作成は今のところ考えていなが、トイレ対策などのチラシを作成し、防災訓練などあらゆる機会を通じて市民の皆様へ普及啓発していく。

答弁 高齢者施設を中心に7施設を福祉避難所として開設することとしている。開設できる体制については、まずは指定緊急避難場所に一度避難していただき、保健師や看護師などによる健康調査等を行い、何だかの支援が必要と判断された方については、福祉避難所を開設し移っていただく体制としている。

今後の福祉避難所の拡充については、市内の高齢者施設と新たに協定締結に向けて協議を進める。



4 企業誘致について

- ◆ 工場用地情報バンクの物件登録の状況について
- ◆ 供給者と需要者のマッチングについて
- ◆ 工場用地の有効利用について

質問 「赤穂市工場用地情報バンク制度」において、中広地区のホームセンター南側に位置する準工業地域の土地利用が進められているが、まだ登録されていない土地の所有者に対して、今後、どのようにして登録していただくのか、また、誘致に向けた取組みについて伺います。

「工場用地情報バンク」のシステムの利用だけや仲介業者に託してしまうのではなく、市が需要者への情報発信や調整に入ることも必要ではないか。

土地利用については、全面利用が条件となっているが、同意を得られず全面利不可能となった場合、分割して企業誘致を進められるのか。



答弁 民間事業者が当該バンクに登録された土地の所有者だけではなく、その近隣に位置する未登録の土地の所有者に対しても働きかけをすることによって一体の開発が進むことを期待している。また、取組みについては、市だけではなく県の外郭団体である兵庫神戸投資サポートセンターや民間の開発事業者を通じて市内の工場適地の情報を広く公開することにより、用地を必要とされている企業の情報を収集することに努める。

事業者が土地を取得するための契約交渉については、赤穂市工場用地情報バンク設置要綱に基づき、市は情報提供を行うのみで契約等について関与しないものと規定している。

需要者と供給者が協議した結果、合意が整わなかった土地についても市としては当該用地の情報を発信するなど企業誘致に取り組んでいく。

きめ細やかな子育て支援に取り組めます

全国で少子化が深刻化していますが、少子化に影響を与える要因として、非婚化・晩婚化及び結婚している女性の出生率低下などが考えられています。

令和2年度の合計特殊出生率は全国平均が1.33、兵庫県が1.39のところ、赤穂市でも子育て支援に取り組まれています、それを下回る1.18です。

私自身、一般質問等により子育て支援について質してきましたが、初孫ができ、保育所の利用申込みすると、親や祖父母の共働きが多いこともあり、諸条件により入所のハードルの高さを改めて知ることになりました。

保育の希望に対する受入れがなければ、子育て不安が先行し第2子、第3子を産み育てることを控えてしまい、更に少子化が進むこととなります。

安心して子育てできる環境づくりに取り組んでまいります。



防災・減災への取組み



ボランティア出前講座



赤穂防災士の会
Instagram



全国各地で甚大な災害が発生しています。

一般質問などで防災・減災対策の必要性を質している傍ら、防災士として赤穂防災士の会において、平常時の防災・減災、災害時の対応で地域防災力の向上に貢献することを目的に活動しています。

尊い生命・財産を守るため、自治会や職場などでの防災訓練・学習を人数や目的に合わせて企画運営・支援させていただいておりますので、お気軽にご相談ください。

心からお待ちしております。

6 月定例会が開会されます

赤穂市議会では6月定例会が6月10日から開催予定です。

私の一般質問は、少人数学級を活かした

特色ある学校づくりによる児童生徒の確保、ボランティアポイント制度の拡充、多く要望が寄せられている高山墓園への交通手段の確保、公共施設へのフリーWi-Fiの導入などを予定しています。

～みんなの声～

日々、気になる
「何とかならんか」
「ちょっと聞いて」
どんなことでも
聞かせてください

介護職員養成研修費用助成が事業化されたのは、障がい者福祉サービスを利用されている保護者の方からのお声でした。

利用したい施設が定員に達していないのにサービスが利用できないとのこと、その理由が資格者の人材不足でした。

他の市町では資格取得にかかる研修費用に補助が出ていると聞き、一般質問において質してことにより事業化されました。

まずはご気軽に声をかけていただければ幸いです。

〈発行元〉 中谷行夫

〒678-0228 赤穂市松原町10-24
TEL & FAX : 0791-42-0990

ホームページ: <http://nakatani-yukio.com>

E-mail: y.nakatani_0706@ares.eonet.ne.jp

Facebook: 中谷行夫

検索



中谷行夫
ホームページ



中谷行夫後援会
Facebook



中谷行夫
Facebook

【討議資料】